



チーム OB 運営員会



古民家再生の物語「ご縁をあるく」

— 「自在」南軽井沢稲葉邸の記憶 —

古民家再生

横浜駅近く、南軽井沢にある築60年の古民家をお借りし、リノベーションを開始したのは、2010年。10年以上使用されていなかった家屋は床は朽ち、畳はその上を歩くと撓むほど床下はシロアリに侵され、畳は朽ちていました。宮大工の手を借りて修復を始める前にその家屋に風を通し、こもっている空気を入れ替え、その掃除に半年かかりました。その後、水回りのメンテナンスを専門家に依頼、それからやっと宮大工による床の修復。地元の畳店に依頼しての畳の新調、障子を張り替え、襖も地元の経師店に依頼して修復、2年の歳月を要しました。特に春から夏にかけては草むしりの毎日…。自宅を開放して立ち上げた（1998年）青少年支援事業（居場所）を巣立った若者たちと共に雑草と追いかけてこの日々が続きました。2年をかけて手を加えて見違えるほどの佇まいとなったその家屋は若い画家や建築家のアトリエとして、また、様々な展示やパフォーマンスの表現する場としてその活用を求められることとなりました。

こけら落としとして、ご縁のあった郡山の民画家 渡辺俊明氏の作品の展示「ご縁をあるく」を開催。その後は途切れることなくアーティスト、クリエイターや建築家などの利用が続いて、芸術家支援の拠点となりました。 （今井嘉江）





Tomito architecture 「建築の重層的な紡ぎ方」

横浜の古民家の離れに事務所を構えてから1年になる。稲荷や井戸がある美しい庭から、近代以前の社会が持っていた世界の奥深さを日々学ぶ気持ちである。初午祭では家主の親族3世代30人ほどが庭に会す。鳥居の前の満開の梅の木に飛来してきたメジロ、祝詞をあげる宮司に落ちる柔らかい木の影や庭から摘んできた榊、走り回る子どもの光景は、ささやかに思えるものたちの、確かなリズムや振る舞いが重なり合って成立していた。はたして現在の都市空間の中で、この庭のように時間や事物の重層的な連関を感じる経験がどれほどあるだろうか。

あらゆるものを線引きし、管理しようとする近代化の過程で、文化や習慣に織り込まれていたその連関は分断されていったのだろう。つくることと使うこと、建築と都市とランドスケープ、領域間の強固な線を越えて関係性を構築することはなかなか難しい。一方、現代に目を向けてみると、その境界が揺さぶられていることがわかる。つくると使うの境界面には、つくり手に独占されていた知識や行為を市民に開こうとする活動や、企画やまちづくりや場所の運営といった、設計の前後の時間に領域を広げるような試みも多くみられる。空間や制度の想定からはみ出した使い手の自由な生活の実践も目を凝らせば、いたる所に見えてくる。

そういった境界面に生じている歪みの中に、今まで分断され同時に考えられなかったものを、取るに足らないとされてきた事物を、建築として引き受け繋ぎ止めるためのヒントが隠されているように思う。われわれが地域に浸かるように活動をしているのは、解像度を上げることで見えてくる生き生きとした歪みがたくさんあるからに他ならない。

「風が吹けば桶屋が儲かる」のような、かつての世界が持っていた事物の相互連関を近代化が隅々まで行き渡った現代の都市において、ノスタルジーに浸らずに、どのように新しいかたちで紡ぎだすことが可能だろうか。人や物や事を同時に捉え、時間をかけて育てていくプラットフォームの必要性を感じながら、模索している日々である。

富永美保 (miho tominaga)

1998年東京都生まれ / 2013年横浜国立大学 Y-GSA 終了 /

2013～15年東京藝術大学建築家教育研究助手 / 2014年～ tomito architecture 共同主宰

伊藤孝仁 (takahito ito)

1987年東京都生まれ / 2012年横浜国立大学 Y-GSA 終了 / 2012～13年乾久美子建築設計事務所 / 2014年～ tomito architecture 共同主宰 / 2015年～東京理科大学工学部設計助手



古民家再生の物語 「ご縁をあるく」 — 「自在」南軽井沢稲葉邸の記憶 —

企画・制作

チーム OB 運営委員会

森田 健太

本谷 健

清水 久美子

朽木 一輝

橋口 政之

伊藤 エリカ

協力

村上 洋司 元井 美智子 今井 嘉江

一般社団法人 自在

この冊子は第66回NHK歳末たすけあい配分金で作成しました。

『獲得したもの』

僕たちが2000年当時のシャーロックホームズ（宮ヶ谷）で獲得したものは「このままの自分でいいんだ」ということを確認できたこと。

現在のシャーロックホームズは子育て支援（介護含む）に特化したNPOとなったため、当時のような青少年事業（居場所事業・自立支援事業）は行われていないため、設立当時、宮ヶ谷の今井氏の自宅（3階）を開放することから始まった青少年支援事業は2012年、再び宮ヶ谷の3階を「チームOB」の拠点として再スタートした。

青少年による青少年の支援として古民家の運営協力や石川町アートスペース「と」が取り組んでいる青少年支援（学習支援）やアーティスト支援活動への協力をする事となった。してもらったことを返していく取り組みとして…。

古民家再生事業のはじまり

次世代の支援（青少年による青少年の支援）と同時に取り組んできたのが、この古民家再生事業（リノベーション及び地域交流拠点整備）の協力である。

2011年、今井氏からの依頼があった、古民家のシロアリ駆除や雑草の処理。朽ちた畳や床に気をつけながら、廃棄物の手配やゴミの処理、水回りは徹底的に掃除したものの、結局専門家に依頼することになった。障子や襖の張替え…。古民家のリノベーションは2年の歳月を要した。しかし、この歳月は無駄にはならなかった。湿度の高い日本の気候に合わせた高い床下、長期間、風の通らない家屋は床や畳が朽ちてしまうこと…等々、素人の僕たちにも木造の家屋の構造のこと、家屋は人が出入りして生きていくのだということを知った。毎日通って風を通し、床を磨いて2年後、使用できる状態になった家屋を目にした時の喜び、再生の瞬間に立ち会えた感動は忘れずにおきたい。古民家の再生は同時に、僕たちの再スタートにつながった。そしてチームOB運営委員会を発足した。

運営：チームOB運営委員会



名邸「自在南軽井沢稲葉邸」に感謝！

三年前、大阪で借りていた工房兼自宅の古民家が老朽化により取り壊される事になりました。大きな陶芸用電気炉を使用していたので、持ち出す事が出来ず、陶芸窯付きの物件を急ぎ全国に探しておりました。もちろんインターネット検索で出てくるような物件は無く、美術関係者の方々に口コミであたっていたところ、横浜美術館の学芸員の方からのご紹介で、以前稲葉邸を使用されていた吉本伊織さんとお会いする事ができ、稲葉邸、そして現在の工房の大家さんである今井嘉江さんと出会いました。横浜は以前横浜トリエンナーレに出展したことや、関内にあるお茶室「SHUHALLY」で個展を開催していた事もあって、ご縁を感じていた土地でしたので、横浜に拠点を移すことに決めました。初めて稲葉邸を見学した際には、横浜駅の近くにこのような素晴らしい古民家があることに驚き、またその環境に感動しました。当時は若い建築家のお二人の事務所である「tomito」が一室を使用しており、僕自身も倉庫兼展示室として二室をお借りすることが出来ました。大型の作品は庭に設置させていただき、あたかもインスタレーションの様な風景となりました。それから早三年、様々な思い出が稲葉邸と共にあります。工房見学に来られるお客様は総じて稲葉邸とその環境に驚かれ、仏間つづきの客間でゆっくりとお話し出来ました。稲葉邸を1日お借りして陶芸体験講座も行いました。SONYの新製品の紹介者として稲葉邸でインタビューを受けた事もありました。(http://life-space-ux-lab.sony.co.jp/article/interview-riyoo-kim) 何より思い出深いのは、近年活動を共にしているアートユニット「AYAKASHI」のメンバーとプロモーションビデオを撮影した事です。和の雰囲気を意識した撮影には最高のロケーションで、メンバー全員で嬉々として撮影を楽しみました。(https://youtu.be/ZPKDWjJXac)

稲葉邸を通して、ここに書ききれないほどの沢山の経験があります。

横浜へ拠点を移した当初から作家活動を共にした名邸、そして柔軟に使用させて下さった管理者の今井さんに、心より感謝を申し上げます。

金 理有 (Riyoo KIM)

1980年日本人の父、韓国人の母のもと大阪府に生まれる

2006年大阪芸術大学大学院芸術制作研究科修了

2007年「とよた美術展’07」豊田市美術館（愛知）

2009年「神戸ビエンナーレ 2009・現代陶芸展準大賞受賞」神戸メリケンパーク（兵庫）

2011年「ヨコハマトリエンナーレ 2011」（神奈川）

2013年「ARTs of JOMON 展」hpgrp NY（アメリカ）

2014年「NEO FOLK」Ikkan gallery（シンガポール）

個展：「Hypotharamaniac」日本橋高島屋画廊 X（東京）

パブリック・コレクション：浄土宗大本山、増上寺宝物庫



金理有
《アルジャーノンの花瓶》
2011年 / セラミック
(c)Yokohama triennale

『自分とは何か。何のために存在しているのか。』

誰もが一度は考えたことがあるだろう。しかし、生活していく上で何らかの障壁にぶつかなければ「自分という存在」について悩むことは少ないと思う。

少年犯罪や自殺、不登校などの問題が頻繁に取り沙汰される中で、「自分という存在」について確かな答えが出せないまま、苦しんでいる人が増加しているように感じる。増え続ける不登校、引きこもり青年、企業戦士の中高年たち。

その背景には、自分自身の存在を生き生き感じたり、存在の支えとなる価値を得ることの出来る機会や場所の消失があるのではないだろうか。このような現代社会の中に生きる小中高生たちはややもすれば学校という教育システムに、日々縛りつけられたまま生活を送ることを余儀なくされているのではないだろうか。

学校に価値を見出し、自分の価値をこのシステムの中で確かなものとして位置づけられてるならそれでいい。だが、そうでない者はどこに自分存在を見出せばいいのだろうか。

(2000年、当時慶応大学2年の永谷亘弘さんがシャーロックホームズへの取材に訪れたときのメッセージ)

僕たち「チームOB」ができること

学校教育システムの限界と、それを超えた新たな取り組みの重要性を感じ、学校という枠組みを超えて、「自分探し」を目的として活動していた当時のシャーロックホームズ（宮ヶ谷）に、僕たちが通っていた2000年当時も、2018年の現在も青少年の置かれている状況は変わっていない。さらに虐待やDV、貧困等々、問題はより深刻になってきているように思う。それでも僕たちは生きていく。2000年当時から宮ヶ谷の居場所に集まる僕たちの他に、地元の大人たちや会社員、カメラマン、画家、映像作家、デザイナー、クリエイター…。さまざまな職種のいろいろな世代の人たちとの出会い、語り明かした日々…。大人たちからしてもらったこと、認めてもらったり、気にかけてもらったこと、受け入れられた経験を次の世代に返していくための行動を開始することになった。



「地元の名店」蕎麦教室で復活。閉店から半年、地域で開催！

蕎麦打ちの手本をみせる上村さん。
今や幻となった蕎麦処「古登婦喜」の蕎麦を試食できるのも楽しみの一つ。自分で打った蕎麦はお土産に！
昨年末に惜しまれつつ閉店した西区宮ヶ谷の蕎麦処「古登婦喜(ことぶき)」の元店主上村(かみむら)景嗣さん(63)が3カ月ほど前(6月)から蕎麦打ち教室を開催している。
「地元の名店」の復活に、月1回の開催を心待ちにするファンが集う。会場は店があった場所からほど近い南軽井沢の自在南軽井沢稲葉邸。



(タウンニュース掲載記事より抜粋)

僕たちは僕たちの居場所であったシャーロックホームズ(宮ヶ谷時代)の利用者として、またボランティアスタッフとして、さまざまな企画を実施してきました。そうした企画を実施する際に地域の理解と協力は欠かせないものでした。特に蕎麦処「古登婦喜」の上村さんからの協力には、僕たち自身が励まされました。その真摯な地域への向き合い方からは「地域の歯車たれ！」と教えられました。今度は僕たちが蕎麦処「古登婦喜」の上村さんを励ましていこうとの思いから古民家を活用した「蕎麦打ちの会」の開催を検討し、実施してきました。



稲葉邸の思い出

横浜駅西口から歩いて20分ほどの閑静な住宅街にある稲葉邸に2011年の年末から10月までの約10か月余り広い敷地に平屋造りの建物の仏間をアトリエとして使わせてもらった。仮眠するためにもう一部屋をお借りしていたが、あくまでアトリエ利用がメイン。寝泊まりするのは仮眠、仕方なく連泊している格好であったので義理にも絵を描いていないと申し訳ない気持ちになり、それが制作のモチベーションの一つになり得た。今振り返ると私にとって稲葉邸が他の場所と異なるのは、作ってないと申し訳ない気持ちになるところだろう。あの時私は行き場を無くしかけていた。房総半島の倉庫はある事情でもう使えなくなっていて、そのとき運良くミュージカルの全国巡演スタッフの仕事があったものの、それも終わって、何処にもいくところが無い私は富山の実家に戻るより他なかったのであるが、この状況を相談した今井さんから今井さんの管理運営している稲葉邸のアトリエ利用の話いただいた。あの時の私はまだ横浜でアーティストとしての可能性に挑戦していたかった。だから稲葉邸のアトリエ利用の話は本当にありがたかった。横浜駅が最寄り駅であったが、稲葉邸は静かであった。そこで可能なかぎり何にも関わらずひっそりと絵を描く事に専念していたように思う。当初2.3ヶ月の予定が目前のチャンスというか創作活動に駆られて気がつけば一年が経とうとしていた。振り返ってみると、稲葉邸という僕にとって得難い場所は収入を得るための仕事に制作時間を削ったりすることも、わずらわしい人付き合いもあまりなく、しかしなにか用事があれば横浜駅が近く都合が良く、自分の都合で生きていられるというか絵を描けるといいうか、自分のペースを保てる空間であった。僕は稲葉邸のあと、同じく横浜の長者町という不夜城ともいべき場所で制作し、そのあと九州天草に移動。稲葉邸での静かな制作時間が自分にとって、本当に大事なものであった。

吉本伊織 lori Yoshimoto

1978年富山県生まれ。2001年Bゼミ理論専修生。風景画を通して、その土地がみせる豊かな空気
の表情、とりわけ山や海において夜明けや日没に見られる光の変化や空気感、雲など大気中に流動
する”水”の姿を捉える独自の表現を追求している

●個展：「海ナリ山ナリ」天草在郷美術館（熊本 2013）、「鉛と墨」nitehi waorks（横浜 2012）、「ア
ウフヘーベン—絶句から絶景—」blanClass（横浜 2012）「佳景」ココラボラトリー（秋田 2011）

●2010年「神奈川県立美術展」神奈川県立近代美術館賞受賞

●主な収蔵先：神奈川県立近代美術館



蕎麦打ちの会（地域に恩返し）



蕎麦打ちを通して地域の人たちの交流の場に



遠藤 啄郎 (Takuo Endo)

日本の劇作家・演出家・舞台用の仮面作成者。 横浜ポートシアター代表。 本名は遠藤 琢郎。

人物・来歴

1928年、神奈川県平塚に生まれ、甲府、若松、東京、北海道旭川にて育つ。

1952年、東京芸術大学油絵科卒業後、個展グループ展などで作品を発表[1]。五十嵐広三(のち政治家)らと、北海道アンデパンダン展でも活動

1959年頃より、ラジオ、オペラ、ミュージカル、舞踊、人形劇、演劇などの脚本ならびに演出家に転向

舞台作品の日本国外での公演も多く、ヨーロッパ、アメリカ、アジアなど30都市におよぶ

長期公演としてはパリのオルセイ劇場での、人と人形の劇「極楽金魚」の一ヶ月公演がある

代表作の「小栗判官照手姫」は、Edinburgh FestivalやSibiu international theatre festivalにも招待される

1972年、劇団・太陽の手を結成

1981年、横浜の運河に浮ぶ木造船内を劇場とし、横浜ポートシアターを結成

1983年、第18回紀伊国屋演劇賞受賞

2001年、横浜文化賞受賞。 その後、多摩美術大学映像演劇科、日本オペラ振興会、オペラ歌手育成部などで講師をつとめる

代表作[編集]

「つけかいどう・よしはるむら・あざ…」つけ義春原作(芸術祭参加)1971年10月31日

「小栗判官・照手姫」(第18回紀伊国屋演劇賞受賞)

「マハーバーラタ・若きアビマニュの死」

「王サルヨの婚礼～魔縁の妃～」

「仮面の四季」(セゾン劇場特別公演)

「夏の夜の夢」(シアターコクーン、プロデュース公演)

「龍の子太郎」(青山劇場五周年記念)

「耳の王子」(横浜ポートシアター・インドネシア国立芸術大学共同作品)

「OGURIとTERUTE」(シアターχプロデュース ケイ・タケイとのコラボレーション作品)

「恋に狂ひて」(横浜ポートシアター 説経シリーズ第2弾)

著作[編集]

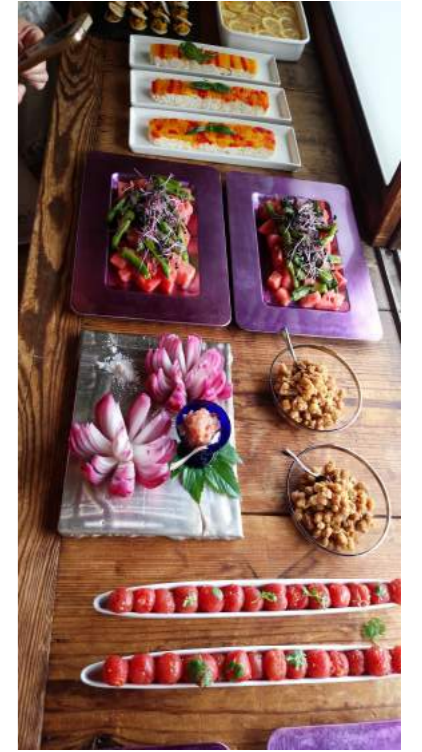
「極楽金魚」(フレーベル館)

写真集「横浜ポートシアターの世界」(リプロポート)

脚本集「仮面の聲」(新宿書房)



ヨガと薬膳



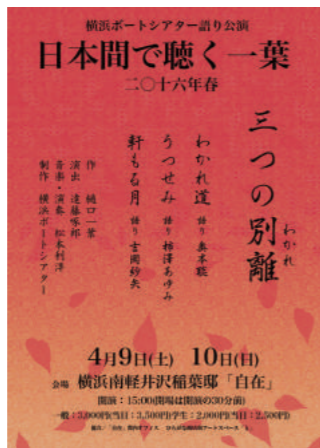
ヨガや薬膳料理の話から
いつの間にか家族のことや
生き方の話しに…。





ヨガ YURI ISOGAI
薬膳 MASUMI TANAKA





元井美智子：沢井箏曲院師範・国際芸術連盟会員
国内外での演奏活動、日本各地に出向き後進の指導にあたる

伊藤はなよ：エジンバラのストーリーテリングセンターで出会ったクリア・ヒュー
イットに感銘を受け、大人のためのお話会を各地で開催している

村上 洋司：大手企業を早期退社後、からだところのケアを目的にワークショッ
プ等のコーディネーターやカウンセラーとして活躍



物語と夏をすごす

一言と華のひびき、ききにおいてー

やまなし 作:宮沢賢治
高 作:安曇道子
あるはれたひに 作:むらかみひろし



出演 ストリーテーター ハーナ(語り)
むらかみひろし(朗読)
元井美智子(音楽)

2017年 7月22日(土)
開場 午後1時30分 開演 午後2時
料金 大人 2,500円 子ども 無料
会場 稲葉邸「自主」
予約・問い合わせ artnetworkdesigners@gmail.com
090-8930-8088(むらかみ)

物語と秋をすごす

一言と華のひびき、ききにおいてー

声にしてみる奉
日本の民話 作:宮沢賢治
神のお話など 作:今西純行
話のきかたに 作:むらかみひろし



出演 ストリーテーター ハーナ(語り)
むらかみひろし(朗読)
元井美智子(音楽)

2017年 11月23日(水/休日)
開場 午後1時30分 開演 午後2時
料金 大人 2,500円 子ども 無料
会場 稲葉邸「自主」
予約・問い合わせ artnetworkdesigners@gmail.com
090-8930-8088(むらかみ)

物語と冬をすごす

一言と華のひびき、ききにおいてー

2016年 12月3日(土)
開場 午後1時30分 開演 午後2時
料金 大人 2,500円 子ども 無料
会場 稲葉邸「自主」
予約・問い合わせ artnetworkdesigners@gmail.com
090-8930-8088(むらかみ)



ティータイムコンサート 箏と言の音コンサート ～月、花、川、風、源氏物語と～

箏: 元井美智子 語り: むらかみひろし

曲目: 荒城の月・花形見・源氏物語より「藤巻」
五十鈴川・風に聞け

5月28日(日)
15:15 開場 15:30 開演

高校生以上 500円 中学生 100円 小学生以下無料
習志野市市民プラザ大久保 047-470-8171




輪茶船 (源氏物語と竹取物語)

源氏物語の敷居を歩く。源氏物語の敷居を歩く。

箏と言の物語

Koto & Koto

源氏物語と竹取物語

源氏物語から夕顔
源氏物語から葵の上
竹取物語から
源氏物語と竹取物語

2017年 7月22日(土)
開場 午後1時30分 開演 午後2時
料金 大人 2,500円 子ども 無料
会場 稲葉邸「自主」
予約・問い合わせ artnetworkdesigners@gmail.com



源氏物語と竹取物語

源氏物語から夕顔
源氏物語から葵の上
竹取物語から
源氏物語と竹取物語

2017年 7月22日(土)
開場 午後1時30分 開演 午後2時
料金 大人 2,500円 子ども 無料
会場 稲葉邸「自主」
予約・問い合わせ artnetworkdesigners@gmail.com



物語と秋をすごす

源氏物語と竹取物語

2017年 11月23日(水/休日)
開場 午後1時30分 開演 午後2時
料金 大人 2,500円 子ども 無料
会場 稲葉邸「自主」
予約・問い合わせ artnetworkdesigners@gmail.com




ポーツシアター
横浜元町の裏を流れる中村川に係留する木造ダルマ船を改造した劇場を拠点に、遠藤琢朗（当時 52 歳）を中心に横浜ポーツシアターの活動を開始。

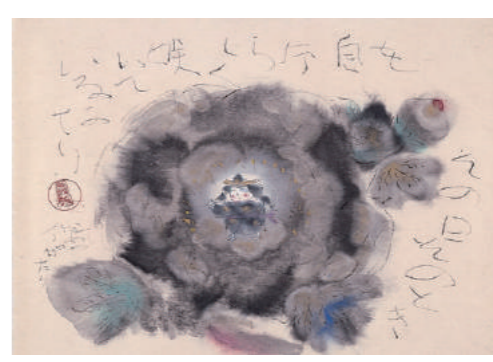
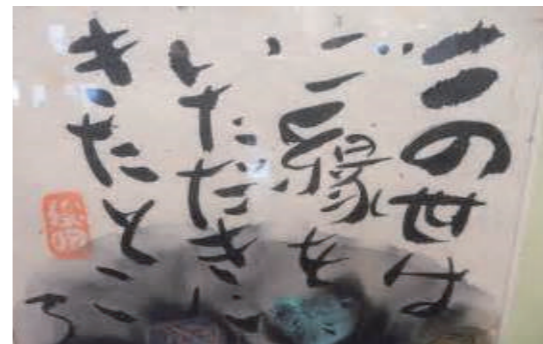
「場」の持つ力ー横浜ポーツシアター創設 35 周年「場」の持つ力よりー
ジャワの劇場プンドボ：20 年来の友人でバリ島を代表する舞踏家の彼が、わたしにこんなことを言った。彼はアメリカやヨーロッパ、我が国でも多くの公演を体験している「外国の劇場で踊るのはあまり好きじゃない、そこには月も星もなく、風も吹かないからだ」時代や物語り、現実の境界が消え、光も音も匂いや風、闇や死者」さえそれぞれ存在をよりたしかなものとし、お互いに生き生きと呼吸し合い、泣き笑い、叫び、唄い踊り、祈る。
ここ在るすべてが哀しいほどのあたたかさに包まれて輝いている。

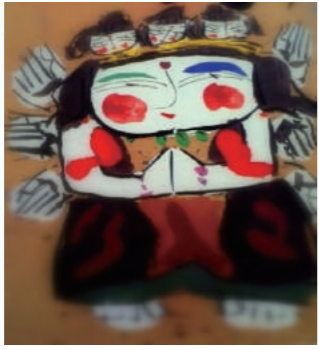
場（トポス）の持つ力によって、これほどまでに作品世界が生まれ変わり、見えないのではとあきらめていた世界が見えてきたのだ。

横浜・東京の劇場上演の不満の謎が解けた気がした。わたしは自分達の船劇場の事を思った。



自在南軽井沢稲葉邸の四季





蓮笑庵



蓮笑庵は、福島県の小さな村に建てられた、民画家 渡辺俊明のアトリエです。

天地に絵を描くように自らが設計し、庭を造り、人も自然も喜びあえる美の浄土を願ってつくられたこの地は、泥の中から咲く蓮の花を象徴として「蓮笑庵」と名付けられました。

山を縫うように建つ建物は。工房「蓮笑庵」、アトリエ「雑花山房」応接空間「万菜」「絵本館」と、それぞれの性格を持ち、俊明がくらしの友とした国内外の美術工芸品を所蔵し、設え、今なお変わることなく日々のくらしが営まれています。



渡辺俊明氏略歴

昭和12年 静岡 県新居町に生まれる
昭和21年(9歳) 小学校4年生の頃、画家になることへの夢ふくらむ
少年期から青年期にかけてこの夢は変わることなく
独学で絵を描き続ける
昭和47年(35歳) 浜松芸術祭典 芸術大賞(浜松市美術館買上げ)
昭和53年(41歳) 日中美術交換展 招待出品(中国国立歴史博物館)
昭和54年(42歳) ギリシャ美術賞展 入選(アテネ国立近代美術館)
昭和55年(43歳) 現代童画会出品作品 文部省買上げ
(国立奈良青少年の森収蔵)
昭和59年(47歳) 久證寺襖絵三十面描く(富山)
昭和60年(48歳) 大阪うめだ阪急美術画廊個展(平成12年まで)
昭和61年(49歳) 名古屋三越個展(平成12年まで)
京都大丸美術画廊個展
昭和63年(51歳) 高知大丸美術画廊個展(平成7年まで)
福山天満屋個展
平成元年(52歳) 福岡大丸美術画廊個展
渋谷東急本展個展(平成9年まで)
平成2年(53歳) 横浜そごう美術画廊個展
平成4年(55歳) 池袋三越個展
平成5年(56歳) メルボルン個展(イースト&ウエストアート)
銀座鳩居堂画廊にて手づくり絵草子本展
平成9年(60歳) パリ個展(メゾンマンサール ギャラリー)
平成11年(62歳) ハワイホノルル個展(日本文化会館)
平成12年(63歳) 今井美術館開館5周年記念 渡辺俊明自選展(島根)
平成16年(67歳) 大阪うめだ阪急 他 全国各地にて個展開催
平成17年(68歳) 10月3日 没
翌年から全国で追悼展、遺作展はじまる



渡辺俊明展「ご縁をあるく」



於 自在南軽井沢稲葉邸